

911.3  
ト

頓  
字  
の  
あ  
と

三

那立夫 好真亭 先住 宗后店



十と心くろを三つをかりゆめを  
るるま末をまはさの好ま高  
三とろあへはよ法事をくも  
ね四時よま玉の連句三つるる  
千のふうをを擽の一葉をい

に二葉つた類 寫はるゝ家の時  
よふあつとる母さつとる支のあつ  
呼のふあつとる繪出さの漁り  
叩く舟あつとる時さつとる磬石の梵  
音あつとるさつとる石波た波り  
さつとるの松風さつとるさつとる  
志竹の調あつとるさつとるあつとる

町家の樂なつとるさつとるさつとる  
ゆへさつとる蓋このさつとるさつとる  
あつとるさつとるさつとるさつとる  
何さつとるさつとるさつとる法華を  
さつとるさつとるさつとるさつとる  
料あつとるの替身なつとるさつとる

宝篋印塔はきりぎりすの年一も

おもしろい供養のうらみ

思ひ元十時

文化三年十月

十月十八日 當日

當庵祝好の証

沢をむく根はまへも一松の葉

ものささゆふささ垣のたぐき

山の井の糸糸糸からよて子人

人のまねのうばる 親 親 三子磨

沼のせよ糸糸糸月をたぐり 誓 桂葉

秋はくも紙よかたふさふさな

東杏

昔はく市街の土に花をく

金解

多ふくしゝもとねの別紙

書

文よきし恨しゝ女の捨てく

末人

早よあつはき川んこの数

丹

をよりも中くゝ負のゝはく

三

駕子花をやゝゝもぼく

鳥

りねらねしむ自分の後をぬ

磨

もと柳色の香の香くら

解

酒華を指らゝさるふ帯のよ

衣

りゝはちかゝのゝいふ草履

木

そぬふのゝいふくまらちか

し

何うくねまの人をぬく

三

白雲の消る方よりちかす

丹

棋を崩さすふまの後を

磨

に戸をぬくはせえちまりちか

磨

きー 嘆い 恋の 宿の 夢 命  
うき人をあずく 夢の 夢 命  
と 津乙女の 救よ くら 夢  
り 枕をふく 夢 命  
記し 夢 命  
木 夢 命  
か 夢 命  
橋 夢 命

磨 磨 三 丹 未 一 解 杏

橋 夢 命  
先 夢 命  
夢 命  
年 夢 命  
道 夢 命  
う 夢 命

解 未 未 磨 磨 丹

いづれも無に舟車におはす

ちいさなまゝありて

らりいんまゝのねんがらふ

時の歌よあこがしー美 叙来

長宗とのふるまをばくは家よまて 大右

傘さしたの石よ 志 へり ト二

押ほめー年の白波あしー 量可

風ふくやう仲の帆えーら 鈴石

浪早波のゆー屋もよりなす 百柱

人の眺るふ 昔 葉のま 石馬

らき女こきて笑ひよありにをり 来

梓のちの弦のかうさや 太

夕暮のちのふき方うあ波の園 二

木橋を馬よくいさふ 月 可

いさふい蓮のちのふきよ 盆をえんて 石

敏ころのそ替秋のふとせ

桂

ふ別をいふまのゆるな替のそ

馬

可きそ名よふ坂のあす

来

交りも名のゆきをいへばうさる

太

速よらるるりなる馬力のあらじ

二

あつたての牛もそもく佛よそ

可

るるるるるるるるるるるるるる

石

むしりりりりりりりりりりりり

柱

端のそふのそをよまよま

馬

味も替るるのゆるすのそにう

来

取らるるるるるるるるるるるる

右

さ井のうらあふるるるるるる

二

大所の道をきききききききき

可

かきききききききききききき

石

濡るるるるるるるるるるるる

桂

君の代のそふるるるるるるるる

馬



心くもくきく梅の咲ふり  
ふり

美の如く糸の籠くふのたてく  
ふり

ほよまをたてく人のわくはく  
ふり

なふ鐘のほめくさくはくはく  
ふり

その鐘のふきく  
ふり

ふり  
ふり

夏の尖りよ蓮のなるは

晴

夏の雲とかがすはるよ遠くを

陶

くもぬららり又ゆる山の火

碧

秋の戸をばしそ人よはや

碧

暮よ終ひし葉のちほつた

佛

さなき多摩路の波のうららり

氣

よふかしくと様祈の念佛

陶

秋の月葉もやしてはらわら

晴

急いんものり早梅のり時

碧

心あふよ人よはほきちふ柳

碧

何ちありを拂よきふの馬の

礼

をぬきハハらのすも又ま祈

佛

家ハとせよの葉よこあへん

晴

急梅ゆふさの夜よ暖すす

陶

活生のよおの橋をわらへん

碧



つらとらふ唇のか田をけこす

鶯

燈の消ふ拍子に鐘の音

庵

神輿の揺よきの波の音もなく

庵

春のまきハ驕りを人の子よしと

馬

銀口臭くもさうぶ赤風の鈴く

學

啼もめ泣つふぬもののかみ子さ

徑

のうへふ友も年ふふまきと

菘

耳塚のまきのるきもえ孫さ

字

冬のおもたよ 第一とらふ岩

庵

波のきけもたなるきもふねをり

菘

飛もをんぬきて 秋ふきぬく

馬

祝りぬ女房ぬらりのふさうき

庵

十念すゝー 山のえのき

徑

稚葉のるやうきの秋をこし兼

風

秋のすねきの矢いろきてり

字

月うーさうさうは 秋のふりのさ

菘

人ハめてるゆきからやーまふー

鴛

福永の羽紙をきよええらる

亀

錦下きものむくきい六月

扇

米えきよ稚きものも産き下

馬

鈴のはらあゝ本戸の鳴き

鳳

よ向よいさのうし野の鳴き

徑

坂のちつちもきよのむとく

存

表の記とちのき

きちんやばなをたよまはもき

叙来

ものむらさしひぬふりをきのかふ

席唄

きよのたきうんゆの山 流りのき

手紙

美子のゆらゆらきーりあなる

田陶

あふくさつちきーりあなる

花籠

松溪の松林——たけふかき家

如周の松林——たけふかき家

連虎の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山帝の松林——たけふかき家

古まの松林——たけふかき家

古まの道——たけふかき家

破さぬ松林——たけふかき家

娘とりに松林——たけふかき家

松林の道——たけふかき家

松林の道——たけふかき家

松林の道——たけふかき家

松林の道——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

らるるの松の葉のふりしるは 百は

たのみの葉のふりしるは 七は

葉のふりしるは 八は

のふりしるは 亀石

葉のふりしるは 卜二

松のふりしるは 和子

葉のふりしるは 徳源

葉のふりしるは 量字

尾の松の葉のふりしるは 若峰

夕浪の柳のふりしるは 鳳竹

葉のふりしるは 菊女

葉のふりしるは 若明

葉のふりしるは 桂志

葉のふりしるは 方辨

叶のふりしるは 龜陶

葉のふりしるは 葵圃

子の... 乙鶴

乙鶴

子の... 吳丹

吳丹

子の... 唐海

唐海

子の... 魯西

魯西

子の... 德道

德道

子の... 免驕

免驕

子の... 蛟流

蛟流

子の... 牛佛

牛佛

子の... 呂法

呂法

子の... 桂流

桂流

子の... 禰令

禰令

子の... 禰流

禰流

子の... 井奴

井奴

子の... 玉射

玉射

子の... 魯流

魯流

子の... 魯神

魯神

梅さくら花の〜〜〜人の家 秋園

人〜〜〜〜〜 飯：

花の〜〜〜二月の〜 仙碑

な〜〜〜〜 畦のうな 古きし

い〜〜〜〜〜 帰山

石の〜〜〜〜〜 掌石

浪月の〜〜〜〜〜 田山

山〜〜〜〜〜 色指

つ〜〜〜〜〜 多路

葉〜〜〜〜〜 幸内

河〜〜〜〜〜 浪瀬

花〜〜〜〜〜 亀白

宿〜〜〜〜〜 桃儿

花〜〜〜〜〜 丹文

花〜〜〜〜〜 麦茂

花〜〜〜〜〜

花〜〜〜〜〜

遠く里のやまをいそぐの美の水 市布

豫念より

も風のふくやまはの切きき 源平

山里のやまをいそぐも うるゑのき 宗徳

風のふくやまはの切きき 風玉

鏡子端のやまをいそぐふ山ふる川 嵐島

重なる端のやまをいそぐきききき 雨聲

花をいそぐやまをいそぐきききき 甲斐 三環

茶の枝とせん 柳のきききき 嵐外

美くも 山なり 山なり 世流

さきさきとせん 柳のきききき 岩源

山をいそぐやまをいそぐきききき 宮内

流流とせん 柳のきききき 宮内

流流とせん 柳のきききき 五橋

浦の柳のやまをいそぐきききき 碩布

乞ひくよむむしきものゑさのぬ 大兆

啼きくう 泣きくう 濁のうらむきり 信押 泣先

枕の縁くする径きくよ柳ふく 半古

る風は柳の葉もまよくまふん 鹿蓋

柳よらむむむむもまうりきり 鳥道

柳える人のうらむむ馬中 駕 重帯

乞ひぬ換えりりのちうくまゐる 争後

るまよる柳一は船わぬ一 か 作十

まゐるのこのまゐるまゐるまゐる 馬車

横ちるひあるりりり せ道 雲舟

ひらきよらひらきよらひらきよら 仙居

梅の葉よむむむ柳一 秋の歌 遠水

笑ふの葉よむむむやむむむ 如鳥

蛙啼やうく 藤のあふくなる 何人

何多のよむむむむむむむむむ 善全

新緑や春り散る 梅よる 善厚

春のつらきまは 春堂

雨のふりしるし 兼雨

神楽の松のこも 長家

雀の代はちりたり 九谷

春のこゝろのなつた 東白

遠近の春をうらふ 眉八

鴨の飛ぶは道ゆり入 李安

宵の月のむくさら 一秀

春のまろくはま 杏の狂

減むめの珠り 在井

神杉は東風よしとて 文東

くぼくを清くはむ 九家

はるまじき春はあはれなり 長家

さす中よたくもくは 孤言

美多のよきまは 五溪

美の月あはれは 似存

梅のふ人のまぬゑにさぶてきり

けお

西風の井よまき解とまりいこふ

入丸

井垣也一灰のうらじし美のそ子

厭重

東風よくやせらる家鴨の尾ふりま

指桂

らまらあやこしむ梅の葉ひのま

李重

むらくの空をまぶる梅のま

む風

代ゆる鴨のちりりり美のこ

吹夜

あの際吹ふまうちうにちま

一中

本體を身とるるりめま風のま

ま時お

りちねを拙くあひしめ藤よる

まらう

美るるの親子の暮るありまきり

宿亭

く少藤もなくして藤ゆく回ういこ

風秋女

約りの節りよぼるうまきうのま

あね女

もらゆねねまきくと月のひか

可明

梅のまね地こまりるる夜のお

丈馬

あのみ款るまよまらう春梅の月

家割

梅の香もともよのちも音の月 梅人

世色の藤池のふくはふうきたり 梅人

雪の蝶や川に川よるけさきり 梅人

梅の香も月の香をねむえたり 梅中

道もよやふもむき梅の香 大坂 梅人

はるよと梅の香もむき梅の香 素也

いふ甲のくさむよふたり後一草

は梅の香もむき梅の香 升六

東坂の香もむき梅の香 伊勢 梅堂

梅の香もむき梅の香 糸 月夜

梅の香もむき梅の香 江戸 梅人

梅の香もむき梅の香 梅人

梅の香もむき梅の香 梅人

梅の香もむき梅の香 梅人

梅の香もむき梅の香 梅人

夜 歌をわらふ

都くさの魚橋よ 上も 夕暮

中島の素籠よ 舟川は月あな 夕暮

杉も 夕暮 夕暮の山 夕暮 の山 夕暮

くむやよ 湯ころ 夕暮 夕暮 夕暮

庭ふ 夕暮 旅の汗 夕暮 夕暮 夕暮

舟の中 夕暮 の舟 夕暮 夕暮 夕暮

大船 夕暮 の舟 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮 夕暮

百子の 夕暮 舟 夕暮 夕暮 夕暮

蓮 夕暮 の舟 夕暮 夕暮 夕暮

うの 夕暮 舟 夕暮 夕暮 夕暮

あ 夕暮 の舟 夕暮 夕暮 夕暮





か神さくろくもふせいふよ 押さくらり 小室堂

秋のさくろくもふせいふよ 大睦

踊らむて屋のゆねをよるいりり 北睦

ゆ秋おきふは煙ふぬ 流るふ 立存

ふよ秋さゆきいりりーその川 喜馬

ふよーとゆねをよるいりり 五渡

ふよーとゆねをよるいりりー九日 久

ふよーとゆねをよるいりり 浮らも

ふよーとゆねをよるいりり 秋 くらわ

ふよーとゆねをよるいりり 青屋

ふよーとゆねをよるいりり

秋のさくろくもふせいふよ 川二

ふよーとゆねをよるいりり 世つる

秋のさくろくもふせいふよ ち布

秋のさくろくもふせいふよ 昔祖

秋のさくろくもふせいふよ 里秋

よの山 帰る 秋のふき 白水

秋のふき 鳴 百俵

むと 鹿地

えい 東水

上も

三浦

士山

亀園

東水

鹿地

百俵

鳴

秋のふき

帰る

よの山

白水

東水



秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

一

秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてらり

秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてらり

山歌

ふきりのおぼき

東若

くさくさのやうな心さうな一葉のやう  
昌胤

さう作はくねぶ男ものうねたが  
あきと

作のきぬはくしきしハこねとろり  
量可

白きおえふさかしの秋——と  
トニ

いぼくしき人の戦うやまきり  
洞子

秋良のらうまなまのやまのり  
美子の

満月のさむしやをふるまはるる  
桂彦

あらゆきころらお消ふ秋のや  
金解

松のきり文あはばきり後の月  
根井

さむしきもいふさかしの秋  
あはれ

うをさくんとぬるあよ後の月  
班彦

あきと  
あきと

秋の秋の飯の目をなよれやさき——  
玉珂

じとさかのねもさかしの秋  
山夕

風やりよかきりもの女部志  
秋彦

秋のきの風——は多川おあ  
大群

以秋也人の旅なり——旅日記

純孝

曙よ秋よ旅の山多きみ

若殿

以秋也人の旅なり——

萩の月の秋よきく——

十洲

村の月の秋よきく——

昌豊

盆の月の佛にもあぬ——

吉海

晴くして斗ふる月の夕えのる

松溪

名月や一斗す——

九阜

暮の月の秋よきく——

渭水

暮の月の秋よきく——

秋石

夕の月の秋よきく——

美草

夕の月の秋よきく——

近房

夕の月の秋よきく——

松溪

夕の月の秋よきく——

若灯

夕の月の秋よきく——

巨水

夕の月の秋よきく——

毫水





可憐なるいふやもいふやもいふやもいふやも

藤園

年のき算終るる海山

樊園

~~~~~

芥の又さつたはる歌也

淡舟

いふはしよ画のいかにさうあつた

暮秋

國ぶりのふりもはるをいふ

在屏

あつたりいふいふいふいふ

席端

商人の身も及中似あや年の後

子勢

年のいふいふいふいふ

麻佛

年やいふいふいふいふ

田陶

いふいふいふいふいふ

手塚

いふいふいふいふいふ

谷龍

藤をいふいふいふいふ

ひ野

いふいふいふいふいふ

海岩

~~~~~

十月のいふいふいふいふの日 東杏

夕子よえ遠くはるかに

木人

三日月の夜は星は輝き

丹人

浪舟の夜は風は静か

中道

白雲の夜は月影は

金

八雲の夜は山影は

福里

後山よ夕暮は静か

宿舎

川舟よ夕暮は静か

秋園

夕暮の夜は静か

至東

夕暮の夜は静か

友俵

白雲の夜は月影は

宣頂

西雲の夜は静か

丁儿

波舟の夜は静か

少波

夕暮の夜は静か

吐月

夕暮の夜は静か

若三

夕暮の夜は静か

岩居

夕暮の夜は静か

鯨吹



色(いろ)はあまの(あまの)の(の)き(き) き(き)

流(なが)る(る)は(は)あまの(あまの)の(の)き(き) 古言

あまの(あまの)の(の)き(き) 呂吹

あまの(あまの)の(の)き(き) 文生

あまの(あまの)の(の)き(き) 素升

あまの(あまの)の(の)き(き) 抱く

あまの(あまの)の(の)き(き) お付

あまの(あまの)の(の)き(き) お路

あまの(あまの)の(の)き(き) お河

あまの(あまの)の(の)き(き) 三机

あまの(あまの)の(の)き(き) お毛

あまの(あまの)の(の)き(き) お毛

あまの(あまの)の(の)き(き) お毛

あまの(あまの)の(の)き(き) お毛

あまの(あまの)の(の)き(き) お毛

ふすめ着て妹山風よふのまはるん  
乙酉

しるは川こよすむくこのりき  
昌徳

河豚突うけぬぐり子のまね  
胤伯

のまはるのこよすむく川  
朱美



文化三斗霜月上梓



